

p117 「一問一答」

1. 授乳中の女性は、デキストロメトルファン臭化水素酸塩水和物を含む鎮咳去痰薬を服用しないこととされている。
2. 麻薬性中枢性鎮咳薬のコデインリン酸塩水和物では、便秘の副作用が現れることがある。
3. ノスカピン塩酸塩水和物は非麻薬性鎮咳成分である。
4. ジプロフィリンは、交感神経系を刺激して気管支拡張作用を示す。
5. 中枢性の鎮咳成分は、延髄の咳嗽中枢に作用して咳を鎮める。
6. グアイフェネシンは、気道粘膜から粘液の分泌を促進して去痰作用を示す。
7. メチルエフェドリン塩酸塩は、交感神経系を刺激して気管支を拡張させる。
8. ヨウ素は甲状腺ホルモンの産生に関与するため、甲状腺疾患のある人は注意が必要である。
9. トラネキサム酸には、血液の凝固を抑える働きがある。
10. グリチルリチン酸は生薬のカンゾウに、エフェドリンは生薬のマオウに含まれる成分である。
11. 1日最大服用量がグリチルリチン酸として40mg以上含む製品については、むくみ、心臓病、腎臓病、高血圧のある人、高齢者は、服用前に専門家に相談することとされている。
12. キョウニンやバクモンドウは、糖尿病の検査値に影響を及ぼすことがある。
13. スプレー式の口腔咽喉薬は軽く息を吐きながら噴射するとよい。
14. 中枢性麻薬性鎮咳成分は、12歳未満の小児等は使用しないこととされている。

【解答】

1. × 授乳中の女性が服用しないこととされているのは、コデインリン酸塩水和物とジヒドロコデインリン酸塩（これらの成分はモルヒネと同じ基本構造をもち、体内で代謝されてモルヒネになり作用を発現するため、乳児がモルヒネ中毒を起こすおそれがある）。
2. ○
3. ○
4. × ジプロフィリンは気管支平滑筋に直接作用して、気管支拡張作用を示すキサンチン系成分である。
5. ○
6. ○
7. ○
8. ○
9. × トラネキサム酸は凝固した血液の分解を抑える作用がある。そのため、血栓のある人、血栓のおそれのある人は注意が必要。
10. ○
11. ○ グリチルリチン酸の大量服用・連用により、偽アルドステロン症を起こすおそれがあるため。
12. × 糖尿病の検査に影響するおそれがあるのは、オンジとセネガ。
13. ○
14. ○